

ふるさとの昔話

川原宿の唐人橋

とうじんばし
市立中央病院と潤井川を挟んで南側の川原宿に、人の背丈を超える石柱が建てられています。今回は、この石柱に伝わる話を地元の加藤重夫さん（八十四歳）に伺いました。

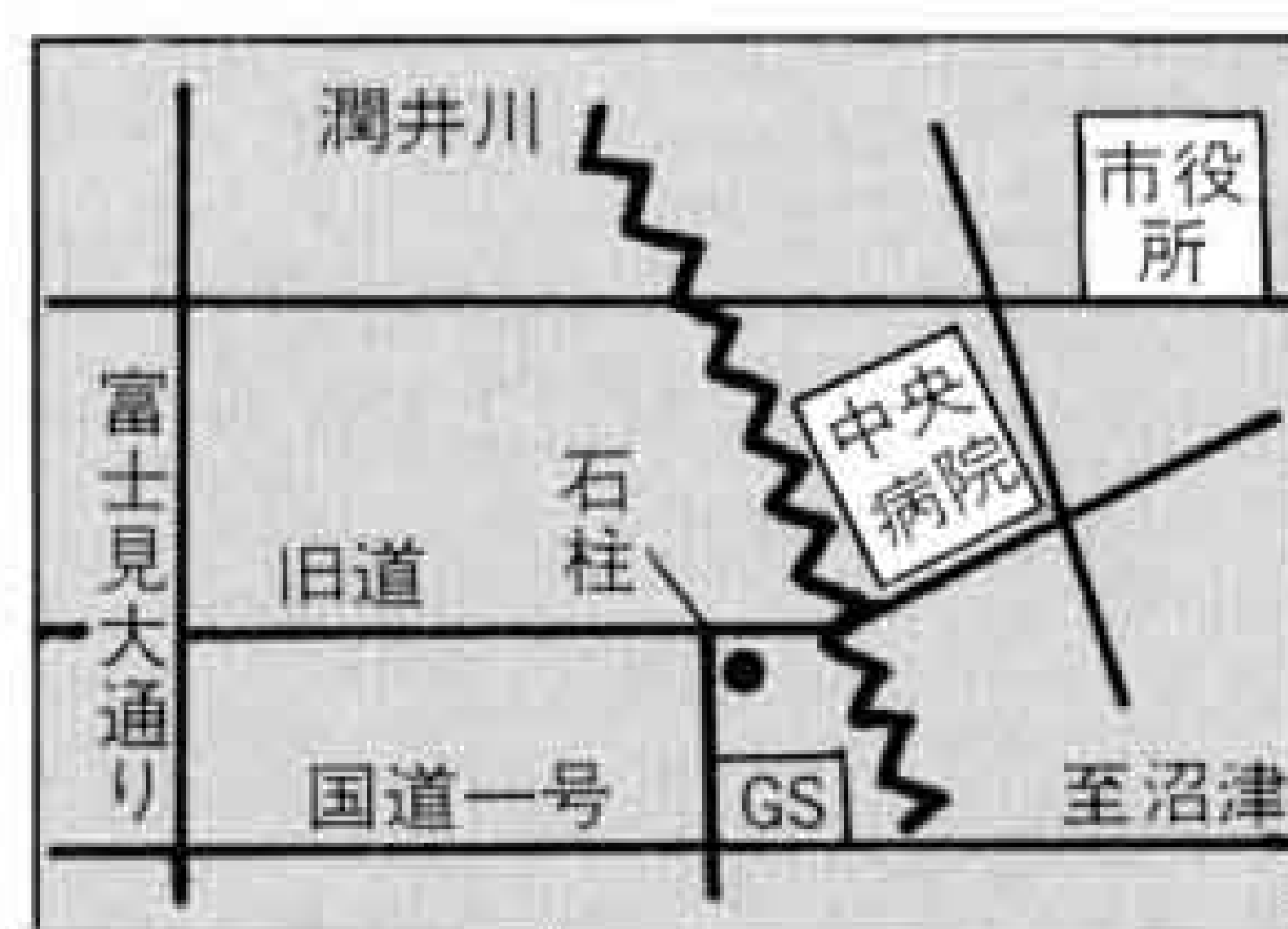


朝鮮使節団が来日

江戸時代の日本は鎖国として外国との行き来を絶っていました。一部、オランダや中国、朝鮮とは開国していましたが、ふだん外国人を見たりすることはほとんどありませんでした。あるとき、朝鮮の使節団が来日し、東海道を江戸に向かって進みました。華やかな衣装の使節や幕府への献上品を積んだ馬など一行は長い列となって進み、沿道には多くの人が集まって見物しました。

川原宿に橋を

「熊さん、やっと橋ができたな」「よう八さん、朝鮮の使節の橋だつてな」
熊さんと八さんは本市場の老百姓さん。その年の使節団のために川原宿に橋をかけることになり、人夫として幕府の命令で駆り出されていたのです。その時分の川原宿は、よく水害に遭い、名前のとおり川原のようなどころでしたが、土地はよく肥えていて、作物はよくできました。また、わき水もあつて



石柱



加藤重夫さん



小さな堀が幾つもある所でした。

大正時代、石橋に

江戸時代は、幕府の戦略的な理由から橋があまりありませんでした。そのため、大事なお客さんが来たときは橋をかけました。富士川のような大きな川では船を連ねて仮りの橋をつくったりもしました。

川原宿にかけられた橋は、外国人が渡った橋ということから「唐人橋」と名づけられ、そのまま残りました。

大正五・六年ころ石の橋にかわりましたが、六・七年前の区画整理で取り壊されました。その際、石を記念にと、石柱が建てられました。

あなたの生活便利メモ ⑩

市民課の上手な利用法

転出や転入の届け、あるいは入学手続のための各種証明などで、三月中旬から四月中旬の市民課は大変込み合います。そこで、市民課の上手な利用法を小林順資市民係長からお知らせします。

「この期間、十時から十四時の間と、月曜日は特に混雑します。で、朝夕の御利用をお勧めします。また、お越しになる前に何が必要



か、もう一度確かめてください。印鑑を忘れたり、謄本と抄本の区別がつかずに手間がかかることがあります。住民票などは、公民館を利用するのもよい方法ですね。それから、昼休みは市民の皆さんの利用を優先させたいと思いますので、営業上の利用は遠慮していただくとありがたいです」とのこと。詳しくは市民課内線二三三へ。

戦後の日本にたった2頭生き残った東山動物園（名古屋市）のぞうを、東京の子供たちが見るために、国鉄が走らせた特別列車のことです。



遊々タイム

【ぞう列車合唱団】
月ぞう列車よ急げ、暗を裂いて走れ、ぞう列車よ急げ、空をかけて走れ月
聞いていても勇気がわいてくるようなリズムの歌声は「親と子のぞう列車合唱団」の皆さん。
ぞう列車とは第2次大

この実話をもとにしてつくられた合唱組曲「ぞう列車がやって来た」の魅力に引かれ、歌い続けてきた皆さんが、3月16日(土) 14:00から初めてのコンサートを開きます。場所は鷹岡公民館。「親子で気軽にどうぞ」と代表の内田さん。詳しくは☎21-0967 (内田方)へ

こちら編集室

ふるさとの昔話は、スタートから13年目を迎え、通算で135話にも。有名な話は大抵終わってしまい、頼れるのは皆さんの情報です。今回も中島の高田国義さんからヒントをいただきました。ありがとうございました。なお、「まちかどネットワーク」は休ませていただきました。